

カンパチ種苗の国産化及び低コスト・低環境負荷型 養殖技術の開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010187

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



カンパチ種苗の国産化及び低コスト・低環境負荷型養殖技術の開発

養殖研究所 栽培技術開発センター

研究の背景・目的

1. わが国のカンパチ養殖用種苗は、ほぼ100%を中国産の天然種苗に依存しています。このような状況下、中国で中間育成された輸入種苗に人魚共通病原体であるアニサキスが寄生していることが確認され、カンパチ養殖魚の信頼性を著しく損なう事態が生じています。この抜本的解決を図るため、一刻も早くカンパチの養殖用種苗を国内産人工種苗で賄う必要があります。
2. そこで、本プロジェクトではカンパチ養殖用種苗を低コストの国内産人工種苗に置き換えるための基盤技術を開発するとともに、実際の養殖業に貢献できる有用な技術を開発します。

研究成果

1. 養成した親魚から通常期（5～7月）に大量採

卵技術の開発に目途が立ちました。種苗生産過程では、全長3cmサイズで生残率12%を達成するとともに、初期減耗の発現時期をほぼ特定しました。

2. 生産された人工種苗8.5万尾を用いたカンパチ養殖場（鹿児島県）での養殖試験では年内に350～400gに達しました（図1）。

波及効果

1. 生産履歴が明らかな人工種苗でカンパチ養殖種苗を賄う大量生産への基盤が構築されます（安全で安心な養殖魚の供給）。
2. 従来の養殖期間よりも短期間で出荷可能となりコスト削減が期待できます。

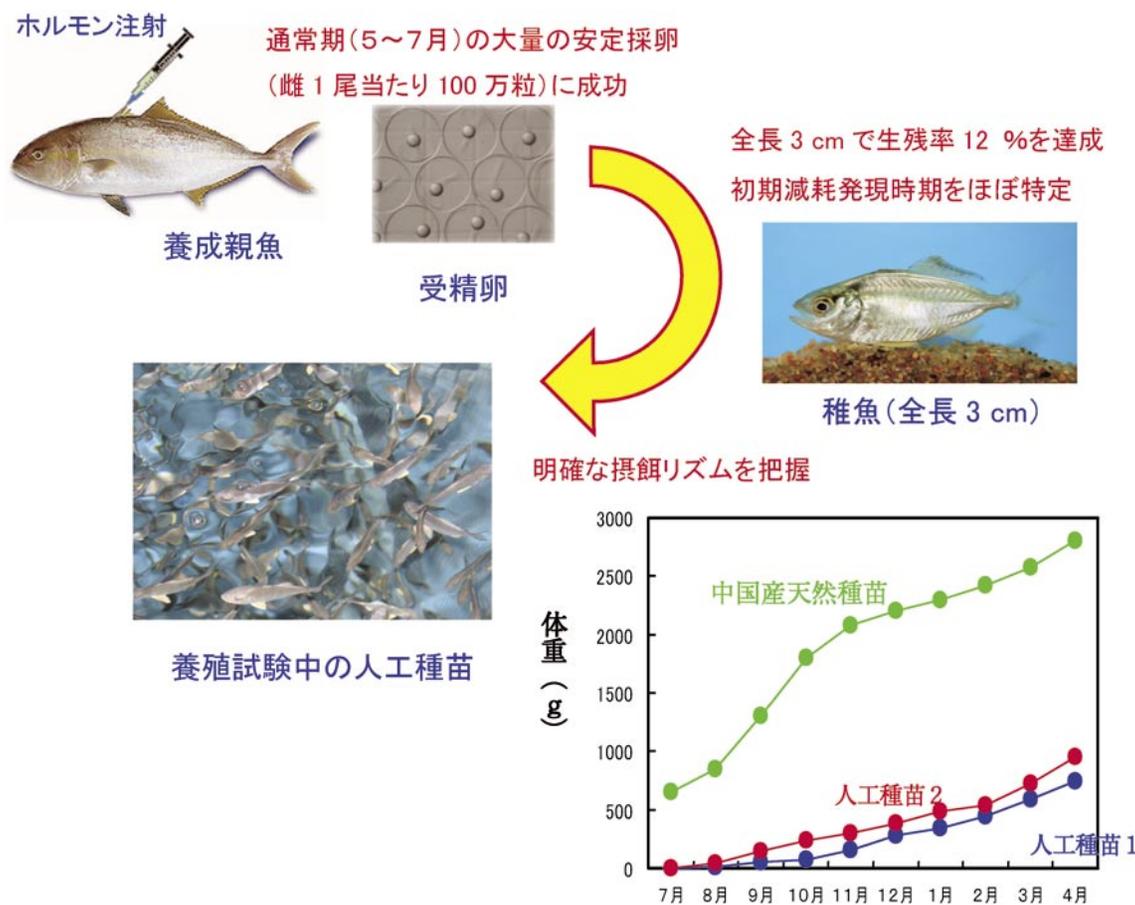


図1. 養殖試験期間中のカンパチ人工種苗の体重変化